

茶 — 祈りと楽しみ 千宗屋好み 興福寺中金堂献茶道具初公開

爲三郎記念館 特別展

展覧会のご案内

各位
平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。
この度、爲三郎記念館では武者小路千家官休庵
家元後嗣 千宗屋氏がセレクトした茶道具を
披露する展覧会を開催します。
是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、
お願い申し上げます。



会 場	爲三郎記念館
開館時間	10時～17時（最終受付16時半）
休 館 日	月曜日 但し最終日は開館
主 催	公益財団法人 古川知足会
協 力	法相宗大本山興福寺 武者小路千家公益財団法人官休庵 他

10月19日(土) ↓ 12月8日(日)

お問い合わせは古川美術館 学芸課まで 052-763-1991

国内外から今、最も注目されている茶人武者小路千家家元後嗣千宗屋氏。伝統を継承する一方で今に生きる茶の湯と茶人の姿を紹介します。

抹茶の風習と文化は12世紀末～13世紀に禅宗と共に伝わり、千利休によって体系づけられました。時代によって茶の趣向は異なるものの、《もてなす》という茶の精神は時代と共に脈々と伝わってきました。各時代の茶人によって試行錯誤が重ねられ、昇華されて現在に伝わります。本展ではその《もてなす》という精神に着目し、茶人としてその精神を体現し、魅力ある趣向、作為を追求する千宗屋氏の茶の湯に迫ります。

古美術から現代アートに至るまで造詣が深く、現代の茶の湯を追求する武者小路千家家元後嗣千宗屋氏は、国内外問わず茶の湯の文化の普及に尽力しています。その鋭い感性は時として利休再来と称され、茶の湯に新たな兆しを与えました。

本展では法相宗興福寺の御協力を得て、2018年10月に行われた奈良興福寺の伽藍の中枢である中金堂落慶法要献茶にて使用され、奉納された茶道具を一般に初公開します。天平文化をコンセプトに千宗屋氏がプロデュースした茶道具は、まさに今の茶の湯を象徴した、若くそして力強いエネルギーに満ち、洗練された世界を見ることができます。視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の全領域を駆使する生活文化の総合芸術である茶の湯。千宗屋氏のセレクトする作品から今に生きる茶の湯をお楽しみください。



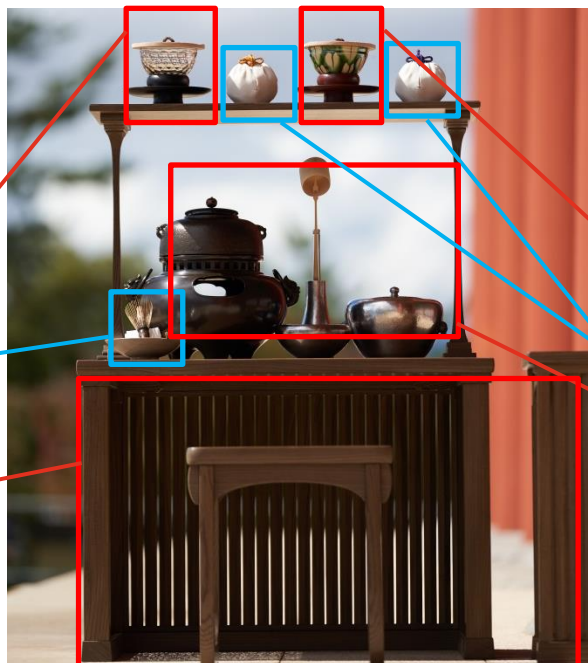
次代の茶の湯界を牽引する武者小路千家 家元後嗣 千宗屋

千利休からおおよそ400年続く伝統の茶の湯を現代に伝える気鋭の若手。武者小路千家の家元後嗣として、東京タワーを望む茶室での茶事や全国各地での講演やNYを拠点に海外に「茶」を伝えるなど幅広く活躍する。

茶の湯の目利きや美術史、古美術、現代アートに至るまで造詣が深く、現在、多方面の芸術家との交流を積極的に行い、活動の場を広げている。

興福寺中金堂落慶法要献茶道具解体新書！！

およそ1300年前に創建された興福寺中金堂。その長い歴史の中で度重なる火災に遭いながら、その度、不死鳥のように蘇ってきました。しかし江戸時代の焼失後は天平規模・天平様式による再建が叶うことなく、300年の歳月が経ちました。そして昨年、とうとう平成の復興が多川俊英貫首（2019年8月現在）によって実現、その落慶法要献茶会の依頼を受けたのが千宗屋氏でした。「天平の文化空間の再興」という巨大プロジェクトに千氏は新進気鋭の作家を集め、300年ぶりとなる御堂の新築に合わせ、すべての道具を新調して迎えました。選ばれた作家は千氏が信頼を置き、茶道具以外での造形活動を展開する活躍目覚ましい若手作家です。その落慶法要献茶の儀を彩ったエネルギーに満ちた茶道具を興福寺に奉納されて以来、初めて一般公開します。



津田清和「白瑠璃碗」
赤木明登「天目台 輪島紙衣 黒」

佃眞吾
「茶杓 真 珠徳形 以中金堂余材」

佃眞吾
「立礼及台子 神代樺製」

加藤亮太郎「奈良三彩 以美濃土」
赤木明登「天目台 輪島紙衣 赤」

赤木明登「天平薬壺形 金銀一双」

長谷川清吉
「釜 唐銅真形 鍍付鬼面」
「風炉 唐銅欄干 鍍付獅子」
「水指 南鐐 天平香水壺形 鍍付迦楼羅」
「火箸 南鐐 宝珠頭」
「杓立 南鐐 官休庵伝来形」
「蓋置 南鐐 官休庵伝来形」
「建水 南鐐 鉄鉢形」

テーマ1 —武者小路千家 官休庵—

千宗屋氏のルーツを紹介。武者小路千家官休庵のお道具を展示。武者小路千家のご紹介から、千宗屋氏の骨格に迫る

【出品予定】変更の可能性あり

床：真伯 利休道歌「茶の湯とは梅寒菊に黄葉み落ち」
水指：瀬戸 一重口 森川如春庵伝来

テーマ2 —武者小路千家 官休庵と尾張—

武者小路千家官休庵と尾張の歴史的な関係性に迫る。名古屋において千家の茶道が始まったのは1700年代ごろ。武者小路千家官休庵と名古屋のつながりを作品を通じて紹介。

【出品予定】変更の可能性あり

貴重書「尾州千家茶道之記」
茶碗 真伯手造 赤 末広
茶碗 好々斎 御深井焼 筒

テーマ3 —千宗屋と現代作家—

千宗屋氏が招聘し、興福寺の事業を成功させた作家を【千宗屋好み】として紹介。作家の代表作(茶道具以外も可能性あり)を紹介することで作家の魅力はもちろんのこと、千宗屋氏がなぜこの作家と選んだのかという事とそれぞれの作品自体の見所に迫る。

赤木明登 — 塗師 —

1962年 岡山県浅口市金光町生まれ
1984年 中央大学文学部哲学科卒業。編集者を経て出版社に勤める
1988年 輪島に移住し、輪島塗の下地職人・岡本進のもとで修業
1994年 独立、輪島で塗師として和紙を使った漆器作りを始める
その後は国内外で個展を中心に活動

加藤亮太郎 — 焼物師 —

1974年 七代加藤幸兵衛の長男として生まれる
2000年 京都市立芸術大学大学院陶磁器専攻修了
2010年 千宗屋師に師事
2015年 幸兵衛窯八代目を継承
2016年 幸兵衛窯歴代展（古川美術館）
穴窯焼成の桃山陶を中心に制作。国内外で個展を開催

佃真吾 — 指物師 —

1967年 滋賀県長浜市生まれ
1990年 木工所に就職、家具職人の修業につく
1992年 故黒田乾吉を知り、木工塾に学ぶ
1995年 井口木工所に就職、京指物の職人修行につく
2004年 木工藝佃として工房を構え独立
2005年 国展工芸部国展に初入選、依頼現在会員
2013年 春日大社式年道具木地製に携わる

津田清和 — 焼物師 —

1973年 大阪生まれ
1997年 関西大学法学部法学学科卒業
2001年 EZRA GLASS STUDIO BLOW GLASS塾卒業
2002年 金沢卯辰山工芸工房ガラス工房入所
2005年 富山ガラス工房勤務
2008年 奈良県葛城市にて独立

長谷川清吉 — 金物師 —

1982年 三代目長谷川一望齋春洸の長男として生まれる。
2001年 ロンドンチェルシー美術大学彫刻科入学
2003年 同大学中退、帰国し父の元で鍛金の修業に入る
2005年 千宗屋師に師事
2014年 初個展。その後、各地で個展を開催
鍛金と彫金の技法を用いて茶道具やオブジェを制作

テーマ4 —興福寺中金堂落慶法要献茶道具初披露—

天平の文化空間の再構成というコンセプトのもと、構成された茶の湯。天平の時代の華やかな文化を反映させた茶道具の魅力に迫る。また300年ぶりとなる中金堂再建の落慶式の様子やその美しい姿から興福寺の紹介。

【詳細は前頁参照】

広報使用画像

※ご希望の方はご連絡ください

◆古川美術館

担当学芸員：林 奈美恵

電話：052-763-1991

mail : n_hayashi@furukawa-museum.or.jp



左)興福寺中金堂落慶法要献茶道具一式 撮影:消忠之

右上)興福寺中金堂落慶法要献茶式より 撮影:消忠之

右下)武者小路千家 官休庵 家元後嗣 千宗屋氏

展覧会名称

爲三郎記念館 特別展

「茶 - 祈りと楽しみ -

千宗屋好み興福寺中金堂献茶道具初公開」

会 場

爲三郎記念館

会 期

2019年10月19日（土）～12月8日（日）

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）

入館料

一般1,000円 高大生500円 小中生無料

主催

公益財団法人 古川知足会

後援

愛知県教育委員会 名古屋教育委員会、中日新聞社、CBCテレビ
スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

協力

法相宗大本山興福寺、武者小路千家 公益財団法人官休庵、尾茗会
Beyond2020、あいちトリエンナーレ2019パートナーシップ事業

【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 F A X 052-763-1994(学芸課直通)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 林奈美恵 (n_hayashi@furukawa-museum.or.jp)

広報担当 学芸課 山内綾子 (a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)

～ギャラリートーク～

日 時 | 10月26日(土)、11月8日(金)、12月4日(水)、各日15時～
参加費 | 無料(入館券必要)
会 場 | 爲三郎記念館

千宗屋特別講演会 「もしも天平に茶の湯があったなら」

要予約

-興福寺中金堂落慶法要献茶式を振り返って-

昨年行われた興福寺中金堂落慶法要。およそ300年ぶりとなる中金堂は、1300年前の創建時と同じ姿で再建されました。その法要の儀として献茶式が執り行われ、武者小路千家 官休庵 家元後嗣 千宗屋氏が「天平」というテーマで挑みました。この講座はそうした千宗屋氏にしかわからないエピソードを交え、現代に生きる茶の湯について語ります。

日 時 | 12月1日(日) 15:00～16:30
定 員 | 180名
参加費 | 1,000円(その他に美術館チケットあるいはその半券が必要)
会 場 | ルブラ王山
申込み | 電話、フロントにて受付

千宗屋直門・尾茗会によるお茶会

千宗屋氏に憧憬し、武者小路千家の茶の湯の精神を学ぶ直門・尾茗会の協力のもと、茶会を開催します。

日 時 | 12月1日(日)
一席目10:00 二席目10:45 三席目11:30
四席目12:15 五席目13:00 六席目13:45 各席定員22名
参加費 | 2,000円(その他に古川美術館と分館爲三郎記念館の共通入館券800円が必要)
会 場 | 古川美術館
申込み | 電話、フロントにて受付